

継続は必ず力になることを、子どもたちに伝えたい――

30年以上もプールサイドに立ち、水泳指導を続ける佐野さん。水泳を通して育んできたのは、泳ぐ技術だけでなく、地域の子どもの向上心と探究心です。

#### 【児童に与えられた自信】

高校時代、柔道から水泳の道へ転身。24歳で水泳コーチとなった佐野さんは、県内でも数少ない「財日本体育協会公認水泳上級コーチ」として認定されています。

市内道悦にスイムスクールを立ち上げたのは30年前。経営も含め、全ては1からのスタートだったそうです。

「まずは、何よりも地域に馴染むことに努めました。水泳が好きだからこそ就いた仕事。泳ぎの楽しさを周囲の子どもたちに



に伝えたくて、小学校の水泳授業でも指導を始めました。当時は武者修行のつもりで行

したが、気が付けば20年以上。児童や先生たちにもらった自信が、苦勞を忘れさせてくれたんでしょね」

#### 【観察眼を培う現場主義】

佐野さんがこれまでプー

科書が過去の物だと気付いたんです。『水泳は、日々進化する目があったから、数々の気付きを得ることができ、自分の今の水泳論に繋がったのだと思います。だから、水泳の



地域に根ざした水泳指導を続けて30年  
のまさひろ  
佐野正大さん（本通七丁目）

で指導してきた総時間数は、他を寄せ付けない5万時間。その原動力は「探し求める目」だといいます。

「世界や全国の大会会場で、一流選手を良く観察している」と、自分が頼りにしてきた教

句を見逃さないよう、現場で新たな発見を探すが、楽しくてたまらないんです」

#### 【人生を開花させる栄養】

かつての教え子の活躍を見守りながら、今の教え子たち

の「芽」を育てる佐野さん。自らの仕事を、子どもたちが花を咲かせるための、畑作りだといいます。そこに注がれるのは、心の栄養です。

「子どもたちの卒業には、いつも胸が熱くなります。旅立ちの日に私は『目標の達成度に関わらず、練習の日々に無駄は一つもなかった』と言って送り出します。達成した子には、ここで満足しない向上心が、達成できなかった子にも、何が足りなかったかを考える探究心が備わるからです。継続は必ず未来への力となるという、私自らの体験です。将来、ここでの経験が、彼ら彼女らの夢の糧になれば嬉しいですね」

今では、スイムスクールを巣立った子が親となり、その子どもを指導することも、珍しくありません。常に新たな子どもたちとの出会いが、佐野さんの心を中学生のように若く保ってくれているといいます。生涯現役を続けたいと、今日もプールサイドに立つ笑顔のコーチ。佐野さんの「人生のターン」は、まだまだ先になりそうです。



子どもの心身のリズムを大切に指導する佐野さん

Shimadian File #52

